



－ 発 行 －

秋田県南秋田郡大潟村字南2-2
秋田県立大学生物資源科学部
アグリビジネス学科

TEL 0185-45-2026(代)

印刷：(株)八郎湯印刷

TEL 018-875-4005

「耕学一如」の 大潟キャンパス回想



秋田県立大学初代学長

鈴木 昭憲

県立大学の設立準備が佳境に入った、平成10年の4月頃だったと思うが、生前、動物行動学の権威として、また優れたエッセイストとしても著名であった、初代滋賀県立大学学長故日高敏隆博士から、お手紙をいただいた。それは、「秋田に縁のある生物細密画家、牧野四子吉(まきのよねきち)の遺作(原画)展が、5月に本荘市で開催されるので、是非出かけて行ってほしい」というものであった。

そこで、秋田市内で大学の設置準備の会議が開催される前日に、本荘市文化会館の展覧会場におもむき、入り口で署名をおえて中に入ろうとしたとき、やはり展覧会に入場しようとしていた年配の男性に、「失礼ですが、今度学長になる予定のひとですか?」と話しかけられた。「そうですか」と頷くと、「自分は、大潟村にある県立農業短大が今

当時、大潟キャンパスに存在した、秋田県立農業短期大学は、昭和48年に、秋田県立農業大学園を母体として設立されたものである。

平成11年には、秋田県立大学の開学にともない、秋田県立大学短期大学部に改組された。その後、県立大学の教育研究体制強化のため、平成18年に、短期大学部は生物資源科学部アグリビジネス学科に発展的に改組された。また、大潟キャンパスに生物資源科学部附属フィールド教育研究センターが設置され、県立大学における、農学分野の教育研究体制の充実が図られた。



大潟キャンパスの正門にある石碑「耕学一如」昭和48年に建立。「耕学一如」は、当時の県知事・小畑勇二郎氏の書。(平成30年10月16日 露崎浩撮影)

◆◆◆ 寄稿者紹介 ◆◆◆

秋田県立大学名誉教授。秋田県立大学初代学長。平成11年に開学した秋田県立大学の創設準備委員会委員長を務めた。神奈川県在住。

貫して農学であり、「耕」とは、農業、農耕を意味するものであった。
ところで、これを今日の視点からみれば、農業にしても国際情勢や地球環境といった、グローバルな視点は欠かせない。また、その農業を支える農学も、生命科学の目覚ましい進歩、人工知能の発達をはじめとする情報技術の発達も視野にいておかねばならない。農学の教育研究にたずさわる者に、気候変動や全人類の視野からの食料不足等の問題意識は必須である。
大潟キャンパスから、これからも、全地球的な問題意識を持った人材が多数輩出され、地域の中核として活躍していただけるものと確信している。

「みなさん、こんにちはー! 私の声が聞こえたら手を振ってくださいー!」これは4年前まで勤務していた男鹿水族館での台詞です。
私は、県立大学への入学のため、京都から秋田にやってきました。
そして大学院に進学し、永吉先生の研究室で魚道設計の基礎的な知見を得る目的で、「オオクチバスの遊泳能力」について研究していたおり、減多に出ることのない水族館の求人が出たため、潜水士の資格を取得して入社試験を受けました。大学院は中退することになりましたが、水族館では在学時にプロジェクトや研究室で学んだことを活かして主に淡水魚類を担当し、ダイバーとしても水槽の掃除やイベントも行い、

1期

生産環境
プロジェクト

今西 洋平

同窓生からの
近況報告

様々な事を経験することができました。その中でも一番大きな出来事は妻に出会ったことです。
そして、今後の人生を考えた入社4年目の頃、より安定した生活を意識して転職を決意しました。そこで私は、大学の生涯学生制度を利用して永吉先生の元で再び勉強させて頂き、的確なご指導の結果、初挑戦で秋田県庁に採用されました。
入庁して最初の2年間は農業農村整備事業を担当し、圃場整備や水路工事の発注から工事の監督をしていましたが、3年目の現在は主に漁港の機能保全(ストックマネジメント) 工事を担当しています。水族館では生き物の命を預かる責任、現在は適切に税金を使う責任と種類は違いますが、どちらもやりがいのある仕事です。
昨年、長男も生まれ、父親としての責任も加わり、ますます身の引き締まる思いですが、秋田の自然と家族の笑顔に癒やされながらこれからも頑張ります。

3期

農業政策研究
プロジェクト

佐藤めぐみ

アグリ3期生の佐藤めぐみと申します。今回、同窓新聞に紙面を割いていただく機会を得ましたので、近況等を報告したいと思えます。
私は大学を卒業してから、すぐに秋田県内にある実家で就農しました。水稲と果樹の複合経営で、現在では水稲10畝、ソバ3畝、リンゴ1畝を毎年作付しています。周囲の小規模農家や兼業農家がどんどん離農していった結果、計画した以上に農地が集積してしまいい、春と秋の作業競合と労働力不足が目下の悩みとなっています。リンゴはすべて直販で捌いており、品質を落とさないためにも今以上の省力化は難しいところ。そのため、水稲の方でプール育苗や地元の新設されたカントリーエレベータを利用するなど、試行錯誤する日々を送っております。地元を腰を落着けたことで、町内会や消防団など地域の集まりに参加することも増えてきましたが、どこでも話題になるのは高齢化や過疎化が進むコミュニティをどう維持していくかという課題です。そういった声を聞くたび、私は大学で6プロ(現政経プロ)に所属していた時のことを思い出します。教授や先輩方について回って、様々な場所で農業に関わる方々への聞き取り調査や交流会に参加した日々。講義やゼミで学んだことを踏まえつつ、そこで交わされるお話を耳を傾ける時間はとても有意義なものでした。ご指導いただいた先生方、共に過ごした皆さんには大変感謝しております。当時得たものを土台に、今後頑張っていきたいと思えます。

*同窓生からの近況報告は2面に続きます。

重要なお知らせ

－同窓新聞4号からはWeb掲載のみとなります 郵送はしません－

4号は2019年12月にHPへアップします。「秋田県立大学HP→アグリビジネス学科HP→アグリビジネス学科運営ページ→キャリア・就職→同窓新聞」で閲覧してください。

3号までは、同窓生の皆さんに郵送およびWeb掲載してきましたが、4号以降はWeb掲載のみとする予定ですので、ご承知置きください。

鵜川 洋樹 記

在校生の近況 「大学院」

修士課程2年 藤原周悦

社会人学生として、本学大学院に入学して3年目を迎えています。農業農村の水利施設の建設や維持管理に関する職場に勤務していましたが、今年3月末で定年退職いたしました。

近年、高齢化と農家数の減少などの問題が深刻化する中で、地域農業と地域の暮らしを支えるため、水資源を安全で効果的に利用する技術の必要性を仕事の傍ら強く認識していました。このため、水利実態と水質特性の解明に関する研究や専門講義を通して研鑽し、地域社会に貢献をしたいとの思いが動機でした。

退職後、農業生産法人に非常勤で勤務する傍ら、改正農業委員会法により農地利用最適化推進委員として、農地の有効利用と遊休農地の発生防止・解消を目的に活動しています。

一般の院生と違い、仕事を持ちながら学業との両立に苦慮していますが、指導担当の近藤先生との相談及び家族や職場の理解を得ることで学業を継続することが出来ています。

今年、9月上旬に京都大学を会場に開催された学会で研究発表いたしました。個人的に反省すべき点も多く貴重な体験をすることが出来ました。また、他の発表者から学ぶ点が多くあり、今後の研究や仕事に活かしたいです。

現在、農業用水兼消流雪用水の水路機能について研究していますが、内容を深めるとともに実態・原因解明と効果的な対応を出来るよう追究していきたいです。

結びに、「楽しく終えた」と言えるように努めたいです。

近年、大学院進学者が増加しています。在学している大学院生は、2018年度は3人、2019年度には6人となる予定です。今回は、大学院生に近況報告をしてもらいました。

修士課程1年 中田翔茉

同窓生の皆さん、初めまして。今年度本学大学院に進学しました中田翔茉と申します。紙面をお借りしまして、近況報告いたします。私は現在、永澤信洋准教授のもとで修士論文の作成の指導を受けております。プロジェクトでいえば、先進作物生産技術開発プロジェクト（旧1プロ）に所属し、4年生からのテーマを引き続き行っています。大学院に進学したことにより、大学院の講義に加え、化学実験や生物学実験の実験TA（ティーチングアシスタント）も務め、充実した日々を送っております。また、学部生時代には学科が違っていた同期の院生と交流する機会が増え、新しい友人を作ることができました。今後も、新しい発見や体験ができることに期待しつつ、過ごしていきたいと思っています。

私の修士論文のテーマは、「第1節間に節様構造を形成するイネ突然変異体の解析」です。内容としましては、イネの節と呼ばれる器官が、本来できるはずのない部位に形成された突然変異体を用いて、遺伝的解析・形態学的解析を行います。これらの解析を通して、イネの節は、植物体の中でどのような制御を受けて作られているのかを明らかにしようとしています。私は、このテーマを題材に、発生遺伝学を学んでいます。学部の4年生の1年間では、ほとんどわからないことだらけでしたが、大学院を修了するころには、深く理解できるように、日々努力していきたいです。

新任教員紹介

大潟キャンパスではこの1年間に6人の先生が着任されました。

増本 隆夫 先生

平成30年4月から高橋順二先生の後任として着任しました増本隆夫と申します。農業水文・水資源が専門で、基盤プロに所属し、地域環境工学総論などを担当しています。ほ場スケールから流域規模までを対象としますが、まずは、雄物川流域、八郎湖流域、増川流域（男鹿半島内）、FCフォアスほ場等を対象として研究を始めました。農学といっても工学系ですから、案外大学が推し進める農工連携に一番近いのかもしれないですね。

平成30年4月に藤井先生の後任として着任しました、秋田県能代市出身の上田賢悦です。前職は、秋田県職員で普及指導員や農業試験場の研究員でした。現在は、政策・経営マネジメントプロジェクトの教員として、農業・農村における人材の学習・成長に関する研究というテーマの中で、農業経営者の人材育成や熟練農業者の技術継承に関する研究に取り組んでおります。

上田 賢悦 先生

岡田 直樹 先生

平成30年4月1日に佐藤加寿子先生の後任として着任いたしました。アグリビジネス学科の政経プロジェクト（旧6プロ）の所属です。農業・食料政策学Ⅰや農業制度利用論などを担当しています。研究面では、新しい農業・農村のあり方、に関心があります。講義では、『清新寮を母体に大潟村役場に卒業生2人を送り込もう！』と説いています。

高津 英俊 先生

同窓生の皆様、はじめまして。今年4月より、李先生の後任として政策・経営マネジメントプロジェクトに赴任した高津英俊です。出身は栃木県です。着任前は母校である高崎経済大学にて助手を務めていました。専門は農業経営学で、新規就農者研究や農業法人における従業員教育研究を行っています。新しい地にて、学生と共に学び成長したいと思っています。よろしくお願ひします。

※編集部注…文中の高橋順二先生は佐藤照男先生の後任です。つまり、長濱→藤井→上田となります。

※編集部注…文中の李先生は平口先生の後任です。つまり、平口→李→高津となります。

西村 洋先生

平成30年4月からフィールド教育研究センター（FC）に、矢治先生の後任として着任しました。山本先生と一緒に農業機械関係の授業や実習を担当しています。ロボット・ICT技術を農業に活用する「スマート農業」を中心に、FCの広大なフィールドを利用して秋田の農業を元気にする研究を進めたいと思っています。

平成30年10月より濱野先生の後任として、フィールド教育研究センターに着任しました渡邊潤です。家畜資源利用推進プロジェクトで家畜飼養管理学を担当します。秋田県出身で、農業短期大学の第24期生として現大潟キャンパスを卒業し、編入学、大学院、県畜産試験場を経て戻って参りました。経験を活かした教育・研究に取組みます。

渡邊 潤 先生

つまり、小林→矢治→西村となります。

お知らせ

* 拡散のお願い *

同窓新聞はWebで閲覧してください

1面でもお知らせしたように、4号からはWeb掲載のみとなり、郵送はしません。2019年12月にアップしますの

* 各期・各プロジェクトの同窓会が開催されました *

1期生同窓会

（平成30年9月 秋田市内）

政経プロ（旧6プロ）同窓会

（平成30年9月 秋田市内）

園芸プロ（旧2プロ）同窓会

（平成30年10月 大潟村内）



1期生同窓会の様子